

サービス等利用計画のアセスメント

障害者がサービスを利用するにあたり、障害者総合支援法では、全ての利用者が「サービス等利用計画を提出するように義務づけています。

その計画書を作成する仕事を、制度として担当する人が、相談支援専門員と呼ばれます。障害者の相談支援専門員の仕事は、まず利用者・家族と面接し、ご本人の心身や障害の状態とご自分で出来ることできないこと、これまでの生活歴、ご家族や地域の資源等も含めた環境を記録し、利用者がどのような生活を希望されているか要望を引き出す役割があります。その上で、長期の目標等を話し合いながら現在の生活の目標（短期目標）を決めて行きます。そして、サービスを利用することによって、ご本人の生活の目標に近付けて行けよう相談しながら支援の内容を決めていきます。この作業が「アセスメント」です。このアセスメント時に、ご本人を取り巻く資源、地域で関わりのある人や場所等まで、把握することによって、事業所のサービスと本人の努力だけでなく、あらゆる資源が繋がって支援になっていきます。



社会にはご本人が持っている繋がり、家族一人ひとりが持っている繋がり等があり、サービス事業所や支援者が持っている繋がりも合わせて、本人の目標に近付けるようサービス担当者会議を開きます。話し合いの結果、足踏みしていたケースが、最初の一步を踏み出したケースがあります。一歩いっぽの変化ですが、相談支援の役割はその都度、丁寧に資源をつなぐプランを組立てて提案することだと思います。そのような実感の中でサービス等利用計画を作っています。（相談支援専門員）

2015 年度総会開催終了

第8回総会が6月21日（日）15時15分よりNPO法人VIVIDNの事務所で開催されました。開会宣言と池田代表のあいさつがありました。議長に北村理事が選任され、正会員数49名のうち、出席者8名委任状19名と定款要件をみたしているとの報告で総会成立が確認されました。

審議は、第1号議案 2014年度活動報告を池田代表から、第2号議案 2014年度決算報告を事務局安部より説明を行い、全員異議なく承認されました。次に第3号議案 2015年度活動計画について、池田代表より第二次中長期計画とともに説明、今年度は事務局体制の強化とミニデイ利用者の個別支援計画の充実を図ることが盛り込まれた第4号議案 2015年度予算案とともに審議され、全員異議なく承認されました。議長解任宣言後、16時45分総会が終了しました。

ボランティアの声

74歳になってから、新しくボランティア活動に参加できるとは思ってもいないことでしたが、ご縁があり今日までに約1年間、体験させていただきました。

過去のカウンセラーの学習、福祉関連の学校での学び、高齢者福祉の職場経験は、今の私に何かしら役立っているのでは？と思いながら、お手伝いをしております。

しかし、1か月1度の参加では、どれほどのお役に立っているのかと思います。因みにノートを開いてみたら、まだ7回しか参加していません。

帰宅して、今日の感想を綴っていますが、皆さんと一緒にゲームをしたこと、詩の朗読など、私の「脳トレ」になっていますし、顔筋肉体操もそうです。まさに「ボランティアは自分のため」という言葉を実感しております。

スタッフの皆さんや付き添いのご家族の皆さんにも教えられることが沢山あります。皆さん優しく親切で、行動力旺盛です。私がぼんやりしているうちに、どんどん事が運びます。

私はこの頃「難聴」の兆しができましたので、近いうちに補聴器の装用を考えています。

後期高齢者ながらも私なりのささやかな関わりができれば幸いです。（佐々木 絹子）

VIVID からのお願い

<http://www.vivid.or.jp>

年会費
会員 個人 5,000円 団体 10,000円
賛助会員 個人 5,000円 団体 10,000円
寄付 金額に規定はありません

当広報紙をお読みになった感想、活動にたいするご要望、ご質問等お寄せください。

TEL・FAX 03-5849-4831

編集後記

VIVID レターの発行が1月遅れ、ご迷惑をおかけしたことまずお詫び申し上げます。

7月にクッキングハウス（調布市・1987年開所）の松浦幸子さんの「心のバランスを崩した人に寄り添うための講座」、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を受講しました。

SSTは、「私メッセージで気持ちを伝える練習」「相手のいいところを認めてほめる練習」「謙虚にきくことの練習」です。「大丈夫、大丈夫」「いい経験してるね」「ゆっくりゆっくり」「気にしない気にしない」などの安心言葉のシャワーで気持ちを切り替えたり、ほめ言葉を伝えあうことで相手との関係をよくする経験を積み重ねることの大切さをあらためて感じました。家族との関係や仕事の中でも活かしていきたいと思えます。（A）

VIVID LETTER

地域包括ケアシステム構築への取り組み	1	なんでも相談 月～金曜日 10時から17時 専用電話 03-6380-2015
VIVID 活動レポート	2	
VIVID 事業カレンダー	3	
ひとこと通信	3	
「相談支援 VIVID」から	4	
ボランティアの声	4	

“VIVID”は高次脳機能障害者の社会参加を支援する特定非営利活動法人です。

特定非営利活動法人 VIVID (ヴィヴィ)
〒160-0021
新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル601
TEL&FAX 03-5849-4831
Eメール hbd-vivid@coast.ocn.ne.jp
HP <http://www.vivid.or.jp>

地域包括ケアシステム構築への取り組み

北海道（小樽市と京極町）で経験した2つの事例検討

地域包括ケアシステムは、平成24(2012)年の介護保険法改正により介護保険制度設計上の想定をはるかに上回る社会保障費を必要とする現実の前に、超高齢社会の問題解決の切り札として導入された政策である。キーワードとして、医療と介護の連携の強化、介護人材の確保とサービスの質の向上、認知症対策の推進、保険者による主体的な取り組み等で、高齢者が地域で自立した生活を営めるよう医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の実現が謳われ、保険者（自治体）は正直、重い腰を上げて取り組み始めているのが現状であるが、具体的な取り組み方法として「地域ケア会議」を活用した地域包括ケアシステムの構築等を提唱している。

私はこの7月31日～8月2日に、北海道の後志（しりべし）地域の2つのまちで開催された2つの事例検討会に参加する機会があった。どちらも日本社会事業大学専門職大学院客員教授新津ふみ子氏が関わり、新津氏が事例検討のファシリテーターを務めた。

1つは、小樽市で開催した新津ゼミと社会福祉法人後志報恩会が共催した「相談支援研修 in おたる」で、今年度から完全実施となった障害者の相談支援を取り上げ、2人の事例を検討した。参加者は数名のグループに分かれ、それぞれのチームで検討を行い、気付いた点などを発表した。地元の病院の医療相談室の精神保健福祉士がスーパーバイザーを務め、多くの相談経験から支援について深く切り込んだコメントがあった。

もう1つの京極町では、公益法人の在宅医療助成を得て、自治体も加わり、社会福祉協議会、地域包括支援センター、地域のクリニックが主催者として連なり、「地域包括ケアシステムの構築方法～住民が主役の地域づくり～」をテーマとして、後志管内町村の保健・福祉・医療・介護・行政関係者向けのセミナーを開催した。ここでは地元のクリニックの医師が運営の中心となり、高齢者の在宅サービスについて2人の事例を取り上げ、プラン作成者も交えた徹底的な検討が行われた。ファシリテーターからの参加者への投げかけにより、詳細な検討が実施されたこのことにより、グループでの検討結果についても深く掘り下げられ、事例を通して多職種の専門職がその役割と視点から、支援の方法や時期（タイミング）に至るまで評価し、当事者の生活の質を徹底的に問うこととなり、本人の望む生活に繋がるプランのあり方に収斂していった。現場で仕事をしている参加者にとっても、職場内でここまで徹底した分析の経験はないだろうと思うほどだった。

今回実施されたこのような事例検討会は、後志地区の1市13町6村に及ぶ自治体を巻き込み参加者約100人にも及ぶ多職種の現場の職員自身が、自分の仕事を学び直す結果となった。自分の仕事が地域の人の生活に深く関わっていることを知る機会こそ、他との連携や地域づくりのアイデアの源泉でもあり、地域包括ケアシステム構築のプロセスであることを事例検討という手法の中に発見した。このような手法は、東京のような大都市でももっと取り入れるべきだと思った。（代表 池田 敦子）

2015年7月18日セミナー開催

「高次脳機能障害者と家族」

2015年度新宿区委託高次脳機能障害セミナー報告

講演1「家族会と支援者の活動から」

今回のセミナーには、脳損傷の夫に「家族」として正面から向き合い、「家族会」の活動を引き受け、さらに支援のプロである「介護福祉士」として働くという3つの立場を20年続けて来られた今井雅子さんに講演をお願いしました。

今井さんは、そもそも当事者の困り感と家族の受ける深刻な状況には大きな開きがあること、そのために、生活の中で以前と違う本人を受け入れることのストレスや、一家の柱とならなければならない新たな役割へのストレスなどを抱え込む。そこで、同じ障害を持つ人の集まりとして家族会の存在があり、そこから次第にピアサポートや情報を集め、提供ができるアドボカシー団体へと成長する。そして、家族の頑張りだけで当事者の一生を守ることが出来ないと知って、家族にできることと専門職（プロの支援者）にできることは違うので、他人や専門職の支援を使うことで、家族も本人も自立して普通の人になって行く。家族会に出合ったことで早い段階で回復に結びつく生活になった例は多いとの経験談は強い説得力を持つ内容でした。会場からの質問にも家族以外がした方が良くことを抱え込まない考え方の大切さが伝わりました。



講演2「高次脳機能障害の問題、疑問、解決策！」

2人目の講演者は渡邊修先生（東京慈恵会医科大学附属第三病院）でした。はじめに、脳の損傷部位からくる障害の特徴や、そこをとらえたりリハビリ例と効果等、多くの画像や動画を示しながら高次脳機能障害の基礎知識について講義をお願いしました。そして、先生からのご提案で、今回の講演の残りの30分を、会場から疑問や質問を出しただけ相談形式の応答の時間にしました。



40代の働く主婦だった当事者本人からは家事援助サービスについて、支援者からはグループワークのリハビリについて、妻の立場からはサラリーマンだった夫の社会参加への不安や失語を伴う生活について、父親の立場からは40代の息子の発動性の回復について、など5人の方から質問が出されました。

共通していたのは、本人が受傷前の自分に戻りたい気持ちが強く、家族の中でも社会の中でも自分のポジションを

持てない不安な気持ちが大いことでした。渡邊先生から一人ひとりへの対応について、今井さんからも家族の立場からアドバイスがありました。終了後には、会場に参加していた「失語の会」の方が相談者に声をかけてくださり情報提供をいただきました。

家族は最も近い理解者であり、また家族だからこそ見えなくなってしまうことがあります。他の家族や第三者、専門の支援者等と日ごろからつながれる場が必要です。将来にむけて大きな課題であり、目標となることが見えた講演会でした。



〈アンケート集計結果〉

参加者 73人 回答者数 40人 (回収率 55%)
* (セミナーのアンケートはHPに掲載しています。)

今井さんへの感想

- ・現にご家族が障害者であるのに明るい表情でお話なさったことがすばらしい
- ・本人の自主性を尊重する重要性が再確認できた
- ・体験談は説得力があり勉強になった
- ・ご自身の体験をお話しされてすごく引き込まれた
- ・当事者の家族でなければわからない話を聞かせて頂き家族として反省することがたくさんあり、大変ありがたかった
- ・家族と支援者の両方の立場で具体的で、面白く、わかりやすく聞くことができた
- ・ご家族でありながら他の方をケアされて両方の立場の意見や思いを知る機会となった

渡邊先生への感想

- ・ユーモアがありスムーズに理解できた
- ・具体的でわかりやすく、理解や対応の引き出しを増やす内容で大変参考になった
- ・いまさら聞けない高次脳機能障害の基礎知識を学習できてよかった

今後、セミナーで取り上げて欲しいテーマ

- ・行動障害があるため家族が困っているが、病識がないため医療機関に繋がらないことが多い(本人は家族に対してのみ暴言がある)。支援したいが共依存にもなって。しまうので大変難しい
- ・事例検討、リハビリについて
- ・支援側の工夫
- ・失語症の方への援助の仕方について。発達障害について
- ・自立に向けての過程の例 など

活動実績

- 2月 14・28日 ミニデイサービス
- 7日 港区第2回高次脳機能障害理解促進事業
- 3日 新宿区自立支援ネット「ケアマネージメント講習
- 3月 14・28日 ミニデイサービス
- 10日 新宿区との予算関係打合せ
- 14日 ミニデイ発表会
- 18日 新宿区障害者自立支援ネットワーク相談支援窓口連絡会・相談支援事業所連絡会
- 20日 慈恵会医科大学附属第三病院家族相談会
- 22日 高次脳機能障害者と家族の会講演会
- 23日 東京都心身障害者センター「社会生活評価プログラム」見学
- 4月 11・25日 ミニデイサービス
- 29日 生活クラブ運動グループ安心NET設立総会
- 5月 7日 VIVID 内部研修会
- 9・23日 ミニデイサービス
- 10日 第2回TKK高次脳機能障害実践的アプローチ講習会
- 20日 新宿区障害者自立支援ネットワーク相談支援窓口連絡会・相談支援事業所連絡会

- 25日 理事会
- 6月 4・25日 駒沢女子大講演講師
- 8日 高次脳機能障害支援普及事業区西部圏域内3区第1回意見交換会
- 9日 都心身障害者センター相談支援員連絡会
- 13・27日 ミニデイサービス
- 21日 VIVID 総会
- 22日 TKK 総会
- 23・24日 都相談支援従事者初任者研修 (全6回)
- 7月 11・25日 ミニデイサービス
- 9日 VIVID 内部研修
- 17日 新宿区自立支援ネットワーク窓口連絡会
- 15日 新宿障害者自立支援ネットワーク相談支援窓口連絡会・相談支援事業所連絡会
- 18日 VIVID セミナー
- 19日 メイアイヘルプユー 15周年記念会

今後の主な予定

- 8月~ 高次脳機能障害 なんでも相談
- 12月 電話相談 (月~金 10~17時)
- 面接相談 (毎週木曜日・第2・4土曜日 13~15時)
- ミニデイサービス 第2・第4土曜日
- 2015年度セミナー 11月7日(土)

ひとこと通信

好きなことができる喜び

Uさんは、2008年11月のミニデイ開始当初からの利用者です。脳腫瘍の手術の後遺症で高次脳機能障害になり2年近く経過していました。現在は、南青山の就労継続支援B型事業所に週2日通いフラワーアレンジメントをしています。他に、週1回はリハビリ病院、障害者福祉センターの竹とんぼで染め物や組みひもをしたり、又、リハビリや体力をつけるためのピラティスや筋トレに通っています。VIVIDのミニデイの感想や日頃の生活についてインタビューしました。(2015年8月編集部)

Q.VIVIDのミニデイはどこが気に入っていますか？

安心して過ごせるところです。月2回なのでしばらくお休みして行くと、緊張してドキドキすることもあります。時間がたつと落ち着いてきます。利用者やスタッフの方も顔馴染みの方も多いので安心できます。

Q.プログラムでは何が好きですか？

ゲームも気持ちよく参加できます。卓球は以前していたので楽しいです。今はできませんが、女子ラグビーもしていました。折り紙も音楽も歌うことも好きです。



誕生日プレゼント

Q.歌がお好きなのですか？

はい、中高時代、讚美歌も歌ってました。そのころは低い音域のパートだったのですが、VIVIDの音楽の時間で高音域もでることがわかり、驚いています。

Q.お仕事のことを聞かせてください。

プリザーブドフラワーでアレンジメントを作っています。父の日や誕生日、コンサートのお祝いなどなど相手にあわせて(相手の方を想像しながら)、どんな花を使うか、季節にあわせて色目や全方向から見られた時のことを考えてアレンジしています。

Q.好きなことが活かせていいですね。

はい、色の組み合わせを考えることが大好きです。フラワーアレンジメントはもちろん、竹とんぼで染め物や組みひもの仕上がりも、昔絵を描いていた時のことを思いだしながら、出来上がりを想像し工夫しています。おしゃれも好きなので、色々なものをつくっている時間が楽しいです。

Q.VIVIDのミニデイとか、これからどういうことをしたいですか？

友だちや妹に編み物のプレゼントをしたり、古着屋さんで洋服を買うのも好きです。自分の感覚を活かした「色」やデザイン関係の仕事ができればいいと思っています。



父の日のアレンジメント